

大学院特別講義

(医歯学先端研究特論)(生命理工学先端研究特論)

(生命理工医療科学先端研究特論)(医歯理工学先端研究特論)

演題 「福祉工学への招待」

講師 伊福部 達先生 東京大学名誉教授

日時 2018年10月10日(水曜日) 17時～19時

場所 7号館2階 第3講義室

講演要旨

現在、日本は人口の超高齢化が深刻な問題となっており、それに伴う社会保障をどうするか「産」「学」「官」の識者により盛んに議論されている。とくに「高齢者の生きがい」と「経済の発展」の両方を満たし、社会保障をマイナスではなくプラスに生かすための道筋を模索している。その対策の一つとして、障害が重い高齢者は在宅して自立できるように、障害が軽い高齢者は社会に出て活動できるようにするための福祉技術が注目されてきており、我々の専門である福祉工学もその一翼を担うことになった。ここでは、「見る」「聴く」「話す」を助ける福祉工学研究を紹介しながら、その研究から見えてきた脳機能の潜在的な能力について述べ、その潜在機能をロボットに組み込むことにより、調和のある人間とロボットとの共生社会が生まれることを予測したい。

参考資料：伊福部達「福祉工学の挑戦」(中公新書、2004)、「福祉工学への招待」(ミネルヴァ書房、2014)「福祉工学の基礎」(コロナ社、2016)、Sound-based Assistive Technology (Springer, 2017)

プロフィール



【略歴】

伊福部 達 (いふくべ とおる, IFUKUBE Toru)

東京大学名誉教授 (所属：高齢社会総合研究機構)

1971年北海道大学大学院修士課程(電子工学)修了。北大・応用電気研究所・助手。助教授、米国スタンフォード大学・客員助教授を経て、1989年北大・電子科学研究所・教授。

2002年東京大学先端科学技術研究センター・教授。2009年より現職。専門は生体工学、福祉工学、音響工学。電子情報通信学会フェロー。北大名誉教授。東大名誉教授。この間、

情報バリアフリー支援のための福祉工学の開拓と産業応用の研究に従事。著書に音声タイプライタの設計(CQ出版、1983)、音の福祉工学(コロナ社、1997)、人工現実感の評価(培風館、2001、編著)、福祉工学の挑戦(中公新書、2004)、福祉工学への招待(ミネルヴァ書房、2014)、ゴジラ音楽と緊急地震速報(ヤマミュージックメディア、2012)、福祉工学の基礎(コロナ社、2016)、Sound-based Assistive Technology(Springer, 2017)など。

連絡先 顎顔面補綴学分野 隅田 由香 [内線 5556]